

能美市商工会青年部とのタウンミーティング

日 時 令和5年11月17日（金）18時30分～21時

会 場 能美市防災センター 5階研修室

参加人数 38名

1. 開会

2. 商工会青年部長ご挨拶

3. 市長市政報告

○令和5年度能美市の予算編成方針

・今年のタウンミーティングでは、「能美市でののみみ過ごそう」をテーマにいろんなところで話をさせていただいている。

・能美市の予算編成の方針は、全て移住・定住の促進につなげるということでやっている。どうということかということ、自治体の繁栄、勢いがあることの数値目標、いろんなことで示されると思うが私は人口が増えているというのが一番分かりやすい指標じゃないかと思ひ、移住・定住の促進に全ての施策がつながるようやってきている。

・7本柱の事業・施策があり、令和5年度は5つの方針・目的に基づいてこれらの事業・施策を進めている。令和5年度の当初予算は約268億ということで過去最高額を更新した。

・この背景にあるのは、皆さんのおかげで財政状況が大変いい状態になっている。特に市税の収入額が令和元年度に初めて90億円を超え、令和5年度は過去最高額の90億9,000万円となった。

・やはり企業誘致と市内の企業さんが大変好調なことから、固定資産税あるいは法人税等々が大変多く、このような施策が行えるということであり、まさに皆様に感謝申し上げたい。

・移住・定住の促進、人口がどうなっているかということ、人口というのは自然増減と社会増減ということで2つに分けられる。お亡くなりになる人よりも生まれてくる赤ちゃんの人数が多いと自然増。引っ越して行く人よりも引っ越して来られる人が多いと社会増。能

能美市は、今、社会増で引っ越してくる人のほうが多いが、大幅な自然減です。特に新型コロナウイルス感染症の拡大に伴って、生まれてくる赤ちゃんの人数が大幅に減ってきた。そんな関係もあり、能美市全体とするとちょっとだけ人口が減っている。これを何とかしないといけないと、いろんな取り組みをしてることを今日紹介させていただく。

- ・ 昨年の8月4日、1時間当たり86ミリという過去に経験したことのない大雨に見舞われた。床上・床下浸水が約180件、農地に水が入ったのが20ヘクタール、土砂が流入したのが12ヘクタール。それから、川をせき止めて水位を上げて田んぼ等に水を入れている小さいダムのようなものを頭首工というが、鍋谷川の頭首工が全部破壊された。

- ・ 令和5年度はまずは災害対策から、復興復旧をしっかりとやり、同じような雨が降っても同じような被害が出ないよう治水対策をしっかりとやっていく。

- ・ 市民の皆さんが市のために頑張る、地域のために頑張る。それから、地域も74の町会・町内会があるが、みんなで地域のことを盛り上げよう、市のことを盛り上げようというのが地域力というが、能美市はそれが大変強いエリアだと思っている。

- ・ 商工会青年部も地域力の大変強い力であり、市としても商工会青年部に対していろんなことをお願いをし、またサポートもいただいている。その一方で、最近、壮年団の人数が大幅に減ってきている。女性会、婦人会が結成できないエリアも最近は出てきている。

- ・ ボランティアの人数も最近減ってきており、この市民力・地域力をもう一回しっかり強化していかないといけないといろんなことやっている。

- ・ 能美市の弱みはいろいろあるが、私はその大きな一つが知名度・認知度だと思っている。東京に行って名刺を出すと、「あっ、能美市（のうみし）の市長さんですね」と言われるぐらい、「能美市（のみし）」という地名がまだまだ浸透をしていない気がしている。

- ・ 自然動態の増進、先ほども申し上げた、いかに健康寿命を延ばすか。一人でも多く赤ちゃんを産みたい、育ててみたいと思うような施策をどうやっていくか。

- ・ GXというのはカーボンニュートラルのことで、この環境問題に対してもしっかりと取り組んでいく必要があると思っている。最近の雨、過去経験したことのない雨というのは、やはり温暖化が大きく影響している。激甚化、それから急に大きな雨がやってくるという、過去そんなことはなかった。そんなことに対してどう取り組んでいくか、我々自治体レベルでも取り組んでいかなければならないと今やっている。

○災害・事故対策

・まず、1番の災害、それから事故も含めた対策です。避難所、昨年8月4日の大雨で能美市で避難所に指定したところで、周りに水がつき、その場所に行けなかった事例があり、もう一回避難所の見直し作業をやっている。大きな体育館が避難所になり得ることから、市内の大きな3つの体育館に冷暖房を入れた。

・我々自治体だけでは避難を進められないことから、根上地区であれば福島グランパークに進出している企業に避難所として使わせてくださいということや、建機、ブルドーザーとかショベルカーを持っているレンタルの会社にいざというときに貸してくださいというような協定を結び始めている。

・交通事故対策では、宮竹小学校の子どもたちが歩くところに、抜け道だと車が猛スピードで走る、そんなケースが結構多いので宮竹小学校エリアにゾーン30プラスを設け、車が30キロ以上出せないようにしている。これは県内初の取り組み。

・防災ガイドブックも3年前に各戸配布したが、昨年8月の大雨を受けてもう一回新しいものを作り直している。

・8月4日の日は朝の5時半に大雨が降った。その日は夏休みで子どもたちは家にいた。だから、ご家族の皆さんと行動できた。例えば朝の10時半に災害が起こった場合、ほとんどの皆さんは働いている。能美市にいればいいが、出張に行っている可能性もある。子どもたちは学校にいる。どうやって避難するか。それから独り暮らしの高齢者や皆さんのご両親だとか、どうやって避難するのか。それが大雨、地震、台風の場合はどうかと、それぞれの災害ごとに、こんな時間にこんな災害が起きたときに誰に助けてもらうのか、どこに避難するのかということをしっかりと一人ずつ作りましょうというのが個別避難計画です。

・個別避難計画の案内を、昨年8月4日の大雨で大きな被害があったエリアから始めている。将来的には能美市民全員この個別避難計画を作ってもらいたいと思っている。ただ、独り暮らしの人を誰が助けるかという話です。誰が避難所まで連れていくか。皆さんほとんど仕事をしているだろう、地震が起きたときにそこに助けに行けないかもしれない。まさにそんなことを全部想定しながら、避難計画を作らなければいけないと思っている。

・こういったことはやはり堅苦しいとか、なかなか頭に入ってこないケースが多いことから、防災フェスタを開催して市民の皆さんに能美市がどんな取り組みをしているかを分かりやすく体験してもらおう。そして、防災センターもリニューアルして、皆さんに来ていただいて防災のことを学んでもらえるような施設に変えていきたい。

・ほとんどの情報は防災行政無線から流しているが、その場所にいなければ聞こえないことから、能美市公式LINEを開設して、災害の情報だけでなくいろんな情報を流すようにしている、ぜひお友だち申請をしていただければと思う。

・施設の老朽化対策についてです。公共施設が大分古くなってきていて、いろんなところで工事が始まっている。市内に11の小中学校があり、築50年以上が面積比で35%を占める。これを順番に直していかないといけないと考えていて、順番的には一番老朽化が進んでいる浜小学校からやりたいと準備を始めている。

・保育園、児童館は15ある。福島保育園が民営化された。次は湯野保育園と緑が丘保育園が民営化される。これは園舎が古いことや市民の皆さんから幼児教育も受けたいという要望があることから、民営化をしながら市民の要望に応えていきたい。

・公民館も古いところが多い、上下水道管も下水道管が市内430キロあり、1年間に10キロずつぐらい直しているが、これもなかなか追いついていかない。

・空き家が全部で700軒ぐらいあり、空き家バンクに登録されているのは20軒ぐらいしかない。空き家も危険なところから直していったらいい。

・案内看板も全部で2,500ぐらいあるが、老朽化したものや、まだ「寺井駅」と書いてあったり、国道8号がついていないような看板がある。そういうのを順番に今直しているが、こういった案内看板もだんだん在り方が変わってきていて、皆さんも目的地に行くのに地図広げて案内看板見ながら行く人なんて今まずいない。ほとんどがナビを使っている。案内看板の在り方も見直しながら順番に今スクラップ・アンド・ビルドをやっている。

○市民力・地域力の強化

・まさにコミュニケーションをどうやって取り戻すか。皆さんにいろいろご協力をいただいている根上の七夕まつりや、辰口のじょんからまつり、あるいはのみごっこの様なイベントをもっと開催していただき、固定されたメンバーだけではなく、今までそういった場所に来ていなかったような人たちにどんどん来てもらいコミュニケーションを取ってもらいたいと思っている。

・特に今年の根上と辰口の祭りで印象深かったのは、小学生、中学生、高校生がすごく多かった。皆さんあいった場所を望んでいたのだと思う。やはりこういった場所は必要なんだろうと感じた。今年も皆さんにいろいろアイデアをいただいたが、さらに今まで行かなかったような人たちをいかにして呼び寄せるか。年代的にも若いだけでなく高齢者や、

例えば障害をお持ちの人なんかも行ってみたいと思える、そんな思い出に残るような場所にしたい思っている。

- ・能美市というのは文化芸術レベルがすごく高い。例えば現代美術展には6部門、日本画や洋画、書、写真等そういった部門に全部出展をして入選できる力がある、そんな場所だと思っている。タントや福祉会館は夜ほぼ予約が一杯になっている。それはやはり練習をしたり発表をしたりしている人たちがたくさんいるからだと思う。

- ・スポーツも大事。健康を維持する、あるいは子どもたちに体力をつけていくためにスポーツイベントもやっていく必要がある。施設や道具も重要なので市としても支援していきたい。

- ・市史を今編さんしている。今年は加賀立国・能美誕生1200年という記念すべき年。県内には11の市、8つの町があり、市で市史を編さんしてないのは野々市市と能美市だけだそう。野々市市は野々市町が野々市市になったのであんまり必要でないらしいが、能美市の場合は寺井町、根上町、辰口町の町史はあるが、市史がないので、まとめたものをしっかり作っていかうと今始まっている。

- ・今年はいしかわ百万石文化祭で市内で11のプログラムを進めている。このいしかわ百万石文化祭の能美市のコンセプトは「市内の至る場所で全市民参加型」ということで、どこに行ってもこの百万石文化祭が能美市で開催されていることが分かるように、全部の公民館の前にのぼり旗をつけたり、高齢者や障害をお持ちの方でも参加できるようなイベントをふんだんに取り入れている。

- ・今年には寺井、湯野、栗生、和気、宮竹の小学校が創立150周年を迎えるという大変記念すべき年でもあった。5つの小学校で祝辞を述べさせていただく機会があった。必ず言っていたのは、200周年に向かって頑張りましょうと。200周年を担えるのは、来賓じゃなく、そこにいる子どもたち、児童だけ。今の子どもたちに「ぜひ200周年を担えるのは皆さんなので、そのためには皆さんが感謝の気持ちを持って友達を大切に、先輩を敬い、地域のことを学んで発信をしていってください」ということを伝えてきた。

○知名度・認知度の向上

- ・能美市大図鑑というホームページで市の魅力をいっぱいコンテンツに取り上げている。能美市出身者で一番有名な世界的にも有名な人というとなつぱり松井秀喜さんということのでいろいろサポートをしてもらっていて、パネルを作っているところなどに設置している。

- ・ホームページを作ってもアクセスしてもらわないと駄目なので、能美市の知名度を広げていくことが必要なことから、「シナモロール」を応援大使に迎えた。

- ・ふるさと納税も一生懸命やっていて、今年は恐らく1億円を超えてくると思う。ホームページでふるさと納税返礼品で検索したときに、やはり上位に来るやつに飛びつく。いろいろ工夫して上位に来るようにしてある。検索サイトをどうするかや返礼品が、ふるさと納税の額に大きく影響してくるので、ぜひ皆さんの取り扱っている商品や製品でふるさと納税の返礼品にどうだというものがあればご紹介をいただければと思う。

- ・ギネスに挑戦ということで、折り紙を折って、この枚数で世界記録を抜こうと今やっている。現在の世界記録は1万何枚ですが、それをはるかに超える20,243枚。2024年3月、新幹線開業ということでこの数字にしてある。大変好調で折り紙が足りないと叱られているぐらい。来年の3月30日に審査を受け、審査を受けた後には、市役所の1階壁面に飾れるようにしたいと思っているので、あそこに私の折った1枚があるという思いでご協力いただければと思う。

- ・能美市のPR動画を作成し松井秀喜さんにご協力いただいた。松井秀喜さんが初めてアフレコに挑戦したということで全国ニュースに何度も取り上げてもらって、「能美市」という地名が全国に伝わった。このPR動画は、10月末まで約5か月間ぐらいイオンシネマ白山の映画館でも流していた。

- ・大都市圏に「能美市」の地名を広げていかないといけないといろんなことをやっていて、毎年2月に県が主体で東京で開催されている伝統工芸フェアで能美市のブースを出したり、エフエム世田谷というところで小林奈々絵さんという能美市の観光大使がパーソナリティをされているそんなところでPRをしたり。東京モノレールに松井さんの広告を出したり、新橋のJALプラザで能美市のコーナーを作ったりしている。

○交流人口の拡大・移住定住

- ・ハード整備で、新幹線開業に向けて多くのお客様に能美市に来ていただきたいという思いでいろんなことをしている。里山エリアにフィールドアスレチックの施設が新しくできたり、トレイルランニングのコースが大変人気なので、これらが点在している里山エリアを面としてPRしていけるようにしている。

- ・能美根上駅の前に勉強ができる施設を今度造る予定。学習センターも大幅リニューアルをし、パークゴルフ場もクラブハウスを新しくする。根上の翠ヶ丘ではアウトドアパーク

ということでスポーツが楽しめるようなエリアに変えていく。福島グランパークは23ヘクタールあり、おかげさまで75%が埋まった。つい1週間前、歯愛メディカルという会社が進出され、約600人がここで雇用される。あと25%ありますがここに商業施設を持ってこれないかと今いろんな取り組みをやっている。ここには保育園もあり、企業に働く人たちがここに預けられるようにならないかという思いでやっている。

・辰口のフラワーハウス跡地は近隣に辰口丘陵公園、いしかわ動物園があり、多くの観光客が利用する大事なエリアじゃないかと考え、ここを今更地にした。当初はすぐにこの場所で事業をやりたい人が出てくるかと思っていたが、今新型コロナウイルス感染症の影響と物価高、原材料高で進出してもらえるところがなかなか特定できず苦勞している。もし皆さんの中で我こそはという人がいれば、ぜひ私に言っていただければと思っている。

・今日は商業の方も多いと思うが、能美市では空き店舗バンクをやっている。我々行政だけではそういった運営管理もできない、宣伝もできないことから、石川県宅建協会と協力をして空き家バンクをつくった。

・住む場所もないと能美市を選んでいただけないことから、和光台5丁目をもう一回再開発してきれいにし、能美市だけではなかなか売り切れないことから、宅建協会の皆さんと一緒に紹介してもらおうという仕組みもやっている。

・人材確保ということでU I J ターンを促進する、そういった取り組みに対して支援をする。あとそういったガイダンスを開催したりもしている。能美市の最大の課題の一つが人材不足。企業誘致が好調なことから、誘致した企業への人材をどう確保するか。その人材が既存の企業から流出していつてしまわないようにU I J ターンを進めていく。U I J ターンを進めることになると、都会の人たちに「能美市」という地名を知っておいてもらわないとU I J ターンが促進されない。ということもあり知名度・認知度の向上をやっている。

○子育て支援・健康増進

・子育て・子宝の支援ということで給食費の無償化を行った。2学期から中学生、3学期からは小学生も給食費の無償化をやり始めています。給食費の無償化を1年間やると2億5,000万円の財源が必要になる。今年度は国からの交付金で賄うことができた。

・健康寿命の延伸では、健康診断に行ってください、ということをやっている。今は国民2人に1人ががんに罹患すると言われている。でも、早期発見すれば治る。今医療がどん

どん進歩しているので、がんは不治の病ではないということもあるので、ぜひ健康診断を受けていただきたい。

・能美電跡の健康ロードは桜がきれいだが、桜の根っこが隆起していたり、通学路になっているが街灯がないところもあったりしているのでそれを整備する。全部で16キロありすぐに整備ができないので、2025年は能美電が開通して100年、廃線になって45年、能美市制誕生から20周年という記念すべき年なので、それに合わせて少しずつ今やっている。これもどういう形で最終的にやるのがいいのかアイデアを募集しているので、商工会青年部の皆さんでいいアイデアがあれば、おっしゃっていただければと思う。

○スマートインクルーシブシティ

・インクルーシブというのは誰一人取り残さない、仲間外れにしないということで、まさに地域共生社会です。地域共生社会というのは能美市が取り組んでいる内容で、健常な人も、それから高齢者も障害をお持ちの人もお子さんも外国人も、能美市に住む全ての人、それから能美市に出張に来たり観光に来る人もそんな人が全て安心・安全・快適に過ごせる、これをデジタルの力を使ってやっていく。

・病院に入院していた人が自宅で療養を始めたとする、かかりつけ医さんやケアマネさんや作業療法士さんなんか、この人がどんな病気にかかっていた、どんな薬を飲んでいたかというのを知る必要がある。けれどもカルテが違うので分からない。病院・診療所のカルテを全部共有化させようと、医療介護情報連携システムで今やろうとしている。そうすることで、患者さんが病院でどんな治療を受けたか、どんな薬を飲んだか、かかりつけ医が分かるようにする。救急車で搬送される場合に救急隊が病院へ連れていくのにどんな病気になっていたのかとか、どんな薬を飲んだかは知る必要があるが今は分からない。それを分かるようにカルテの共有化をしようと今やっている。

・今は喋る家電がある。「ご飯食べた？」とか「おやすみなさい」、それから部屋の中の空気を分析して、「最近寝るのが遅いですよ」とか「体調に異常ありませんか」と言う。その機能を使い、次のステップとして「大雨・洪水警報が能美市から発表されました」「避難指示が発令されました」ということを家電からお知らせしてもらおう。防災行政無線はほとんど皆さん台所や居間に置いてある。寝室に行くとき聞かないので、こういうことをIoT家電（喋る家電）を使ってしようとしている。

・電化製品のスイッチを3日～4日間押さなかったとする。そうすると、ご家族に「安否

が確認できません」と知らせることを今少しずつやり始めようとしていて、能美市には今、独り暮らし世帯が約2,600世帯あるが、まず100世帯をモデルに始め、いろんな問題を解決しながら順次広げていこうとしている。

・デジタル公民館をやろうとしている。市内には約80を超える公民館があるが、全てWi-Fiを設置した。ここでスマホ教室やGIGAスクールを行い子どもたちと高齢者が集うことで多世代間の交流ができる、そんな場所にデジタルの力を使ってやっていく。あるいは、公民館にドローンを飛ばしたり、無人車を走らせて買物難民をヘルプしたり、病院に行かなくても公民館で診療ができるようにしましょうということをやろうとしている。市内のそれぞれの公民館のある地区の特徴や置かれた環境に応じたことをしていきたいと思います、と今やり始めようとしている。

・デジタル田園都市国家構想交付金という国からの補助金があり、能美市は2回連続、このタイプⅡに採択されている。そんな支援も受けながらデジタルの力を使ってやっていこうとしている。

・これらのことをやるにしても、やはり市民の皆さんの理解、協力、そして現地現場に行き行って今どんな状況かを分かっていないといけない。特に私が今市の職員に言っているのは、コロナの感染が広がったことで過去の経験だとか過去の実例は今一切通用しない。状況がどんどん変わっているから、もっと現場に行き行って市民の皆さんの声を聞いて、現場を見ながらやっていこう、と言っている。

4. 井出市長×宮本周司参議院議員 ディスカッション

5. 意見交換

(事前質問)

【質問1】工業団地ではなく、商業用の土地の分譲を考えているか。店を出しやすい環境の整備が必要だと思う。

【市長】考えている。工業団地の場合は大規模なエリアが必要だと思うが。商業だとすると、住宅地の間にあるような場所が適地なのかと思っている。例えば空き家や空き地を利用してもらうということから空き店舗バンクあるいは空き地を紹介するような、そんな取り組みをやっている。

一定程度の宅地造成をしていった場合に、やはり宅地だけでは選んでいただけないこと

もあり、そういった場所には店舗を入れていきたいと思っている。例えば和光台5丁目の場合は、なかなかそこまでいかないかもしれないが、金沢大学の跡地約10ヘクタールを今能美市が購入をして宅地造成をしていきたいと考えていて、そういった大規模な宅地を造成する場合には、そこには商店も入ってもらわなければまちとして成り立っていかない。そのところに商業にも入っていったいただける取り組みをしていきたい。

【質問2】市の予算の決まり方、配分方法など、各分野の細かい決まり事はどこで決まるのか。

【市長】 予算というか、能美市の事業をどうやってやっていくかという大きな骨子は、総合計画というのを作成して決めていく。それに基づいて、毎年毎年そのときに応じて予算配分をしていく。例えば昨年8月4日のような大きな災害があった場合には、そういったところの復興復旧に予算を充てていかななくてはならない。

新幹線開業が間近だということになると、そういった千載一遇のチャンスを生かせるような観光用の施策を例年に比べて多く行っていくということ。

スケジュール的にどうかというと、行政の場合は新年度の予算は3月に市議会があり、その議会で1年間の大枠の予算を議会で承認をいただく、これが大体の大きな流れです。

3月の議会で承認をいただくためには、10月ぐらいから市のそれぞれの課や部でどんな予算が必要かということ積み上げていく。そして能美市の場合は総務部長ヒアリングというのがあり、その次に副市長ヒアリングというのがあり、最終的に1月の中旬ぐらいから市長ヒアリングというのが3月の議会が開会するまでである。ずっと缶詰になっていろいろ検討や調整を重ねて、予算が決まる。

少し平たく言うと、まず総合計画というのを5年間分ぐらいつくる、そして大きな被害があったらこれは入れなくちゃならないな、新幹線の開業があったら入れなくちゃならないなというようなトピックス的なところを盛り込んでいく。それからあとは、スクラップ・アンド・ビルド。これまでこんなことやってきたけども、あんまり効果がなかったからやめましょうというようなことをしながら決めていく。

ややこしい話かもしれないが、議会というのは年4回ある。足りなかった部分を6月、9月、12月の議会で補填をしながら1年間通して進めているというのが大体の流れ。

【質問3】今年の根上り七夕まつりは2日間多くの来場者で賑わいましたが、辰口まつり含

め市長の祭りへの想いをお聞きしたい。

【井出市長】 根上り七夕まつり今年は2日間やりました。2日間やったのがどうなのかをまた青年部の皆さんと話たい。辰口まつりは1日だった。こちらも2日にしたほうがいいのかも一回話せたらと思う。

コロナの影響もあるのかもしれないが、踊りの参加者が年々減っている。やっぱり祭り、踊り、その辺りの繋がりをどうしていけばいいのかも悩んでいる。私はどちらかというと祭り人間なんで、見てるよりも参加するのが好きな人間。だから、あそこに多くの人たちが参加してもらい、参加してもらいというのは見てるだけが参加じゃないと思う。屋台をやったり、踊りに出たり、高校生がいろんなところで体験をするというのも参加だと思う。思い出づくりだと思っていて、楽しかった、また来年も来たい、大きくなったときに、ああ、こんなことをしてたな、楽しかったな、あのときにこんな友達がいたなとか、青年部のみんなが頑張ってたなという、そんな思い出づくりの場所になれるように能美市としてもしっかりと皆さんと考えながらやりたい、と思っている。

【質問4】 今年、根上体育館のテニスコート場が閉鎖した。去年は、浜小学校のナイターが撤去され、今後は根上球場、根上体育館も補修、建て替えはしないという話を聞いた。

来年から、中学生の部活動が社会体育学部に移行すると聞いた。社会体育学部は一般の社会人の方がコーチを務めるクラブが多く、根上方面の体育館やグラウンドなど今後ますます夜の時間帯に使用が集中することが予想される。部活の時間が少なくなると少し子ども達がかわいそうな気がしますし、能美市在住の人が小松市、白山市などにスポーツの活動拠点を移していくかもしれない。

この問題についてどうお考えか、ご意見をお聞きしたい。

【市長】 道林のテニスコートは駐車場に変えていくんですが、体育館があったりパークゴルフ場があるのでもっと利用しやすいように変えていく。そのテニスコートをなくすときに、当然利用者の人たちの声も聞いて、無くなってもそんなに影響がないということからテニスコートは廃止した。

補修と建て替えについてですが、球場は潰せないと考えている。松井秀喜さんの練習した場所でもあり、「栄冠は君に輝く」という歌ができた石碑もある。市内に野球場が3つあるというのはほかの市町から大変うらやましがられていて、無くせないだろうと思っている。

こういったスポーツ施設をどう考えていくか、これは先ほども申し上げたが財源がある中でどう配分をしていくかということに尽きる。もちろん、スポーツ施設も充実させていかなければならないけれども、学校もある、いろんな施設、市の公共施設もある、道路も橋もあったりする。そういったことをどうバランスよくやっていくかということ。

能美市がそのスポーツ施設に対してほかの市町と比べて手薄いかというと、私はそうではないと思っていて、例えばほかの市町は体育施設を利用するときに利用料金を取る。能美市の場合は、大きな施設の場合はほとんど無料。ナイターや冷暖房費はもらうことになっているが、そういった利用料金等から見ると能美市はほかの市町と比べるとまだまだ優遇されているんじゃないかと思っているし、今後体育館が足りない場合は小中学校の体育館も市民の皆さんに使ってもらえるようにしながらやりたいという思いもある。

ナイター設備も見直しをしたが、全部LED化をして明るくなっている。面積的には、幾つもあったエリアと今のエリアはそんなに変わっていないはず。逆に言うと明るくなっているぐらいだと思っているので、もしこんな施設が足りないとか、もっとこんな施設造ってほしいという声があれば、ぜひ聞かせてもらえればと思っている。

【質問5】部活動が完全に地域移行されるのはいつ頃か。

【市長】今7つの部活動が移行していたと思う。全部をいつまでに移行するかはまだ予定は決められていない。やはり指導者をどう確保できるかに尽きる。

今移行しているところには、やはり熱心な指導者がいる。今日、スポーツに長けているとか携わっている方はいっぱいいらっしゃると思うが、実際に指導者からも先生たちからも悩みを聞いていて、部活動というのは競技力を高めるだけじゃない。やはり精神力とか、成長期に仲間と一緒に涙流しながら厳しい練習を耐えて成長していくときに、競技力を高めるだけでは済まされない。だから、指導者にはそういった精神力も養えるような力も必要なんじゃないかと言われる先生もいる。そういった指導者になり得る人たちに、指導をしていただく前にそういった講習も受けてもらったりもしている。

なので次から次へと簡単にやれるというものではなく、指導者をどう確保していけるかにかかっている。この中にも協力したいと思っている方がいれば、ぜひ我よと思って手を挙げていただきたい。

【質問6】市長をやろうと思ったきっかけを伺いたい。今後の市長が目指す能美市の構想

を知りたい。

【市長】 今後の能美市の構想はやはり移住・定住をいかに促進させるかだと思っている。市内に選ばれる店が幾つあるかというのも移住・定住の促進にどんどんつながると思う。そういったいろんな魅力が複合してあればこそ、能美市の魅力だと思っているので、それには商工会青年部の皆さんのポジティブな考え方や行動力が必要だと思うので、ぜひ一緒に能美市を盛り上げていきたいと思っている。

(質疑応答)

【参加者】 市がやっているLINEは私も登録しているが、今現在の登録者数、今後目標とする数値を教えてほしい。私は利用させてもらって、子どもがまだ小さいので熊の出没情報だったりとか、猿が出現したとか、あそこは危ないから近づかないでとか、子どもに言えるツールとして使っている。

【市長】 私は危機管理DXと言っているが、防災行政無線で皆さんにお伝えするには、まず量に限界がある。その場にいないと聞けない。それから、災害情報だけではなくて、能美市のいろんな情報をそこに盛り込んでお流ししようと、3年前から取り組みを始めた。

LINEも、市内にある屋外スピーカーも全部新しいのにした。それから防災行政無線各戸のやつも、もうほとんど変わったと思う。8月4日の大雨になったときに、「金沢に行っとったし分からんだ」、それから「たくさん情報流してもろたけど、全部聞き取れん」というような話があって、このLINEを開設したときに、私はすぐに3万人ぐらいお友だち申請があるんじゃないかと思ったが、まだ9,000弱。登録していただくと、災害情報だけではなく、能美市のホームページにもすぐリンクできる。いろんなアプリにも繋がっていて、例えば道路が陥没しているというところがあれば、それを写真に撮って送ると市の担当部署のところに届く、そんなアプリもあるので、ぜひ皆さんお友だち登録をお願いしたい。

【参加者】 市政報告で、災害の個人避難計画などがあったが、一人一人が災害に対して大丈夫だろうという頭があり、特にお年寄りの方や子どもを持つ親に避難をしてくださいと強く促さないと家から出ないという問題があると思う。

そういう対策をLINEや放送だけじゃなく、地域の役員や町内同士で人対人で声かけを行ったり、また町内の自衛消防団が減ってきている地域もあると思うので、そういう取

り組みが今の現代のやり方も便利で人件費も削減できるけど、昔ながらのやり方も大切だと思っている。

【市長】おっしゃるとおりだと思う。各町会にも町会長・町内会長さんがいらっしゃる。それから、民生委員・児童委員さんがいらっしゃる。ケアマネさんや、防災士さんがいらっしゃったりしていて、何層にも手が差し伸べられるそんな状況をマンパワーでもやりたいと進めている。

そんな意味でも、いわゆる避難訓練には積極的に参加してもらいたいと思っているし、こういった防災施設にも訪ねてきていろいろと見ていただきたい。先ほど申し上げたガイドブック、これも今見直しをされていて、ご自宅で見ただけだけでも、ああ、こうだったんだという思いもしていただけると思う。恐らくそういったガイドブックも大きな災害があると見ようかなという気持ちになると思う。私も実際そう。でも、いつ何どき皆さんが災害に見舞われるか分からない、まずはガイドブックを読んでいただくとか、避難訓練に積極的に参加してもらえればと思っている。皆さんにも協力をお願いしたい。

【参加者】商品開発で「シナモロール」を使って商品化したいときに、今年の7月ぐらいに聞いたときは、サンリオさんと直接契約して使用料を払って使わせてもらおうと伺った。例えば著作権使用料としてのお金を補助として出すというのを考えているか。

【市長】考えている。ただ、サンリオさんはすごく厳しい。私や市の職員全員の名刺に「シナモロール」のシールをつけているが、これも全部チェックしてもらっている。何しろ、サンリオさんが自分たちが持ってるキャラクターの意匠権やイメージがあって、それを守るために色々な細かい取り決めがあり、そんな中で商品開発をしてもらうことになっている。我々もそれに対してどれぐらいの支援をさせてもらえればいいのかなかなかまだ見えない状態。「シナモロール」を活用してふるさと納税を増やしたい、市にたくさんお客さんに来てもらいたいという思いの中で考えています。

どんな物をつくりたいかはアイデアを出してもらって、我々もそれをサポートしていきたいと思う。一緒にやりましょう。

6. 閉会